

①病院名	②H29 病床数	③2025年 の病床数	④再検証対象該当理由
東京都立神経病院 (府中市)	304床	304床	A「診療実績が特に少ない」 (神経難病は評価外)
⑤公的資金の投入状況 ＜自治体や国からの繰入金、運営費補助、交付税交付金等（経営補助・損失補てんの資金）を記載＞			
投入状況 (記載) 有or無	有	名称 ※有の場合	平成30年度決算 一般会計負担金 249,711千円 一般会計補助金 2,922,342千円

病院の特色について

1 「得意とする」「重点的に取り組んでいる」主な医療の内容

- あらゆる脳・神経系疾患、特に神経難病・筋疾患に対し、急性期の入院治療から慢性期の在宅医療まで一貫した高度な専門的治療を提供しており東京都難病診療連携拠点病院（都内11病院）の指定を受けている。
- 入院専門病院であり、外来診療は隣接する多摩総合医療センター、小児総合医療センターで実施。
- 得意とする疾患
筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、筋ジストロフィー症等の神経・筋難病の専門医療
パーキンソン病やジストニアに対するDBS（脳深部刺激療法）や難治性てんかんに対する外科治療（選択的海馬扁桃体摘出術など）、脊椎・脊髄疾患や難治性疼痛に対する専門的外科治療
- 難病患者の機能維持や著しい機能低下を防ぐため、呼吸・嚥下リハビリなどを実施しているほか、声を失った患者のコミュニケーションツール「マイボイス」の取組やロボットスーツHAL®を活用したニューロリハビリテーションも実施。
- 通院が困難な神経難病患者に対して訪問診療（多摩地域在住の100名）を実施しているほか、居住地域の各医師会、保健所等と連携した在宅難病患者の療養支援に取り組んでいる。

2 地域の医療機関との連携の状況（例：高度急性期病院との連携、地域の診療所との連携）

- 難病患者の円滑な地域移行に向けて、地域の医師会、訪問看護ステーション、診療所及び他の医療機関と連携し、入院早期からサポート体制の調整を行うとともに、適切な診療の継続に必要な情報を提供している。平成30年度は、患者、家族、地域の医療機関等とケースカンファレンスを140回実施し、延1,191人が参加した。
- 訪問診療対象者全員に対して、災害に備えて物品の確保、災害時の対応について指導を行っている。特に人工呼吸器使用患者については、地域の関係機関と連携して停電シミュレーションを実施するとともに、災害時個別支援計画の策定に協力するなどの取り組みも行っている。
- 地域の医療水準向上に向け、地域の診療所や訪問看護ステーション等に対して、技術指導を実施するとともに実習生や研修生の受け入れも実施している。平成30年度は、延69事業所、126名の地域関係者の参加により、神経難病患者の意思決定支援や口腔管理、倫理的側面から考えた支援等を設定し、講義とグループワークを実施した。

3 その他、病院の特徴的な取組

- 平成30年度主な症例実績（脳神経内科）2,339例
 - ◎変性疾患（パーキンソン病、ALS、脊髄小脳変性症など）1,489例
 - ◎末梢神経障害（特発性多発ニューロパチーなど）172例
 - ◎筋疾患（筋ジストロフィー症、多発性筋炎・皮膚筋炎など）99例
 - ◎炎症性疾患（髄膜炎、脳炎・脊髄炎など）75例
 - ◎その他（てんかん、多発性硬化症、重症筋無力症など）504例
- 東京都が平成31年3月に策定した「多摩メディカルキャンパス整備基本計画」は、脳・神経系難病に加えて多摩総合医療センターで対応しているリウマチ・膠原病などの免疫系難病を集約した上で強化を図り、高度で包括的な難病医療を提供する「難病医療センター（仮称）」を整備する計画であり、2030年度頃の開設が予定されている。（キャンパス内連携により、ほぼ全ての指定難病に対し、小児期から成人期に至る総合的な難病医療を提供していく。）